

岩田善市氏を偲ぶ

佐伯史談会長 高 木 嘉 吉

(佐伯市藤原)

岩田善市氏は、昭和五十九年三月十一日入院先の渡町台病院で長逝された。惜しい人を失った憾が深い。二月初に体調をこわして入院してから、専心療養に努められたが回復せず遂に長逝した。訃報に接して人生の無常を感ずること切に、大きな支柱を失った虚脱感を如何ともすることが出来なかった。それ程岩田さんは私にとって思い出深い存在であった。以下色々な面から思い出を述べて岩田さんの遺徳を偲ぶことにする。

岩田さんとは凡そ三つの面で長い交誼を続けた。

その第一は教育の面である。大正十一年に私が初めて教壇に立った時には、岩田さんは先輩として同じ道を歩いていた。昭和の初め佐伯小学校に共に職を奉じたことが、昨日のことのように思い出される。以来同一校に勤務することはなかったが、せまい南郡市の内にあって、

時折顔を合せて教育の道に励んだものである。

岩田さんの温健な性格、児童生徒に対する深い愛情、卓越した識見、児童生徒を実際に導く手腕等は見えてもほればれするもので、至らない自分を反省したものである。勤務地には辺地も多かったが、「乃公出でずんば蒼生を如何せん」の感慨をもって事に当たったものである。かくて教諭として、又校長として、南郡市の教育界に多大の功績を残したことは万人の認むる所である。

第二は寺総代としての交際である。岩田さんの菩提寺江国寺も、私の菩提寺海福寺も、共に妙心寺を本山とする臨済宗の禅寺である。岩田さんも私も寺総代に選ばれ、総代会長として檀徒を代表する立場にあった。それで妙心寺の修養団体である花園会にも出席することになり、養賢寺、万寿寺、妙心寺で持たれた研修会に、共に出席

して坐禅したことも、懐しい思い出として心に残っている。敬虔な仏教徒としての岩田さんの在りし日の姿は、生き仏さながらであった。

第三は佐伯史談会の会員としての交際である。岩田さんは、史談会の結成と同時に参加した熱心でふるい会員であった。堅田郷は郷土史の宝庫で、柵牟礼に拠った佐伯氏の遺跡や古戦場、優美な堅田踊、堅田踊のくどき、その他多くの伝承等々がある。岩田さんはこの堅田文化研究の第一人者であった。古文書の研究や精密な実地踏査等頭の下るものがあった。機関誌に発表した宇山城址



岩田善市先生

の研究や、八幡山の実地踏査等は貴重な研究として高く評価されている。

実地に足を運び、眼で見、手で触ることをモットーとして研究を進めた史談会は、南郡市は言うまでもなく県内・県外の各地を探訪した。岩田さんは欠かさずに出席して行を共にした。奈良・京都・高野山・吉野・鳥取砂丘・宍道湖・広島・岩国・下関・博多・長崎・雲仙・天草・鹿児島・宮崎等々を顧る時、各地の風光の中に岩田さんの姿が浮んで眼前に去来する。カメラを肩に先頭に立って歩いた岩田さんの姿は、若い会員に史談会員の在り方を示しているように見えた。

岩田さんに、米寿・白寿の長寿を望んでいたが、天は寿をかさず、八十二才で長逝された。惜別の情たえないが、生れそして死ぬことは人の世のさだめ、今はただ安眠を祈るのみである。

